

湖南中部流域下水道関連遺跡  
発堀調査報告書（虫生工区）

—木部天神前遺跡—

1979

滋賀県教育委員会  
滋賀県文化財保護協会

## 序

わたしたちの祖先が守ってきた、美しい琵琶湖が、70年代の急速な開発の波にあらわれて、「死の湖」に近づきつつあるとの認識が、ようやく普遍化するなかで、「富栄養化防止条例」をはじめとする行政的な対応もしだいに具体化しつつあることは、まことに喜ばしいことである。そして、琵琶湖浄化のカギを握る下水道事業も、近年来、本格的にとりくまれ各地で工事がすすめられている。これに伴ない、永年地下に埋っていた遺跡のいくつかが、その工事の対象となり、これまでたびたび事前調査を実施してきた。本書もその調査の成果の一部をなすものであり、これが大いに活用されることを望むとともに、調査に協力を惜まれなかった関係者各位にお礼を申し述べたい。

滋賀県教育委員会

文化財保護課長 沢 悠 光

## 例　　言

1. 本書は、昭和53年11月1日から昭和54年3月31日まで実施した、野洲郡中主町木部所在、木部天神前遺跡についての発掘調査の記録を収めたものである。
2. 本調査は、滋賀県上木部下水道建設課の依頼にもとづき、滋賀県教育委員会が、財団法人滋賀県文化財保護協会の協力を得て実施した。
3. 現地調査および報告書の作成には、滋賀県教育委員会事務局文化部文化財保護課技師大橋信弥が担当し指導した。
4. 調査・整理には、水野敏昭、中西和多隆、谷口孝司、大橋美和子、玉村光、南部慶子、川那辺法子、竹内義明の諸君が参加した。
5. 本書の執筆は、主として大橋があたり、遺物写真の撮影には、寿福滋氏を煩した。記して謝意を表したい。

湖南中部流域下水道関連遺跡  
発掘調査報告書（虫生工区）

—木部天神前遺跡—

目 次

序

例言

Iはじめ	1
II調査の経過	1
III遺構	
(1)井戸	3
(2)土塙	5
(3)溝	5
(4)ピット	6
IV遺物	
(1)須恵器	6
(2)土師器	7
(3)黒色土器	7
(4)その他	7
Vむすび	7
付篇周辺地域の出土遺物	8
出土遺物観察表	10

## 図 版 目 次

- PL 1 遺構 1. 調査区全景(北より) 2. 調査区全景(南より)  
PL 2 遺構 1. 調査区近景(東より) 2. 調査区近景(東より)  
PL 3 遺構 1. 調査区南部近景(北より) 2. 調査区北西部近景(南より)  
PL 4 遺構 1. SE1、SD1、SK2、SK3近景(南より) 2. SD2 遺物出土状況  
PL 5 遺物 須恵器(C 003 ~ C 041)  
PL 6 遺物 須恵器(C 030 ~ C 034) 土師器(H 050 ~ H 092) 黒色土器(B 093)  
PL 7 遺物 1. 須恵器(C 001 ~ C 016) 2. 須恵器(C 017 ~ C 031)  
PL 8 遺物 1. 須恵器(C 035 ~ C 044) 2. 須恵器(C 045 ~ C 049)  
PL 9 遺物 1. 土師器(H 064 ~ H 075) 2. 土師器(H 063 ~ H 084)  
PL 10 遺物 1. 土師器(H 052 ~ H 091) 2. 土師器・黒色土器(H 056 ~ B 098)  
PL 11 遺物 1. 黒色土器(B 099 ~ B 110) 2. 黒色土器・土師器(B 111 ~ H 119)  
PL 12 遺物 1. 周辺地域出土土器(E 120 ~ B 128) 2. 周辺地域出土土器(B 129 ~ C 135)  
PL 13 遺構全図(折込)  
PL 14 SE1・SE2、平面・断面実測図  
PL 15 天神前遺跡出土土器実測図 (C 001 ~ C 026)  
PL 16 天神前遺跡出土土器実測図 (C 027 ~ C 043)  
PL 17 天神前遺跡出土土器実測図 (C 044 ~ H 056)  
PL 18 天神前遺跡出土土器実測図 (C 057 ~ H 077)  
PL 19 天神前遺跡出土土器実測図 (C 078 ~ H 119)  
PL 20 周辺地域出土土器実測図 (E 120 ~ C 135)

## 挿 図 目 次

第1図	位置図	1
第2図	遺跡周辺地形図	2
第3図	調査区配置図	3
第4図	遺構配置図	4
第5図	SK2、SK3、平面・断面実測図	5
第6図	周辺地域出土位置図	8
第7図	周辺地域出土土器	9

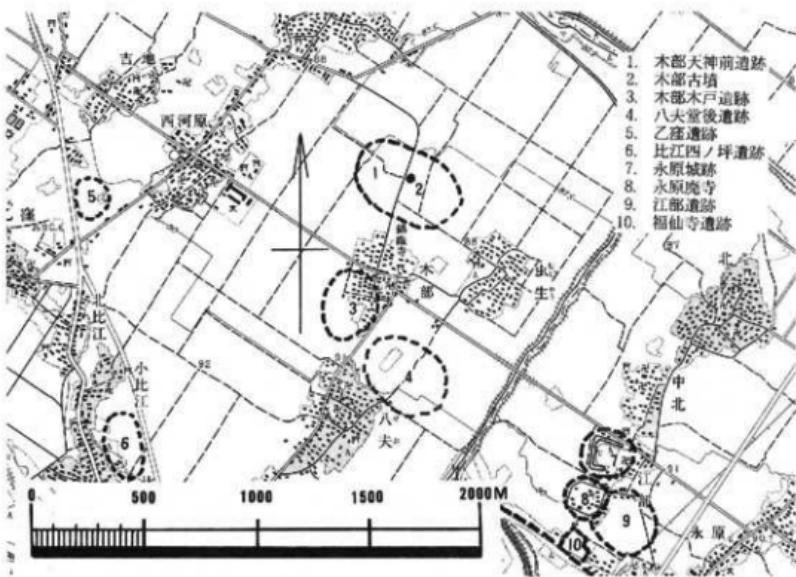
# I はじめに

本調査は、滋賀県土木部下水道建設課が、計画・実施する、湖南中部流域下水道巾主町虫生工区立坑掘削工事に先立って実施した、埋蔵文化財発掘調査である。

従来、当地域においては、中主町唯一の首長墓とみられる、「木部古墳」の存在が知られるのみであったが、近年付近で「は塙整備事業」が実施された際、数ヶ所で遺物の出土が報告されており、今回工事着工に先立って、確認調査を実施したところ、遺物の散布が顕著であることが判明、(注1)事前調査を実施することとした。ただ、遺跡の発見がおくれたこともあり、工事用道路建設が先行したため、管理用道路部分については、本格的な道路建設が着工される段階に実施することとし、当面掘削、破壊の明白な、下水道本管貫入用立坑の部分について、試掘調査を実施したところ、多数の遺物を包含する層が検出されたため、引きづいて、完全調査を実施することとした。

# II 調査の経過

現地調査は、昭和53年11月1日から11月8日の約一週間を要して実施し、昭和54年3月31日まで整理を行なった。調査にあたっては、鉄板をはかけたバックボウで、耕土・床土等を排除し、遺物包含層の上面まで掘り下げた。この面で、暗紫色砂泥を埋め土とするピットが若干検出され



第1図 位置図



第2図 通路周辺地形図

たため、この掘り下げ、記録後、人力により包含層を除去した。包含層除去後、精査したところ、井戸状遺構2基、溝4条、土塙4基、ピット多数が検出された。ピットのうちいくつからは、上層において検出できなかったものを含み、下層遺構の埋め土、暗褐色粘質土と、明らかに異なっていた。検出後、順次掘り下げたが、涌水が激しく、困難をきわめた。堀り下げ完了後、写真撮影・実測を行ない、調査を完了、再びバックボウを投入して、下層遺構の有無を確認したが、明確な遺構の検出はなく、調査を完了した。

### III 遺構

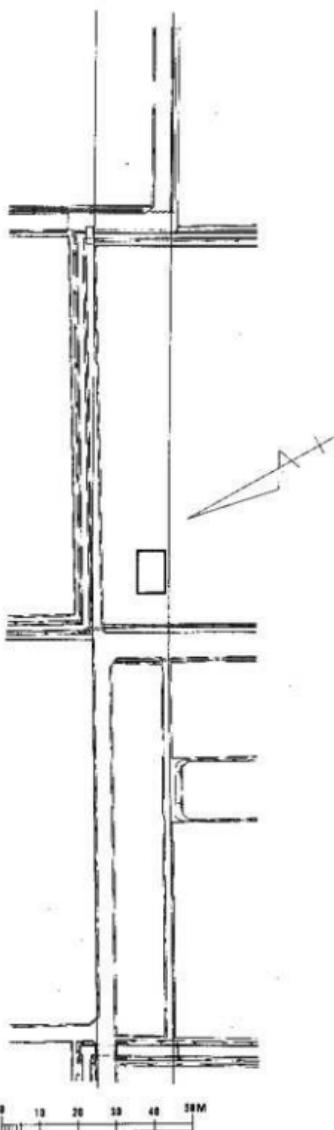
検出した遺構は、上述のとおり、井戸2基、土塙4基、溝4条、ピット多数であった。このうち、若干のピットおよび、SE2が包含層上面から堀り入れており、やや後出するものと考えられる。

#### (1) 井戸

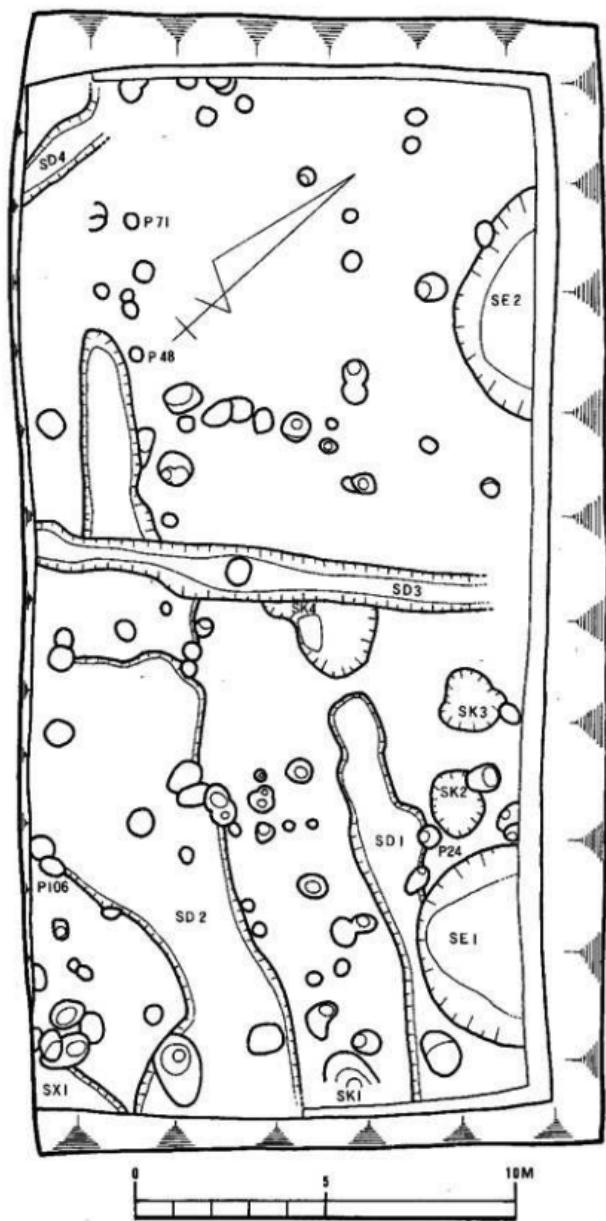
調査区の東壁に接して、井戸2基がその半ばを露見した。北側のものをSE2、南側をSE1とした。

SE1 直径2.6m、深さ0.8mをはかる円形素掘りの井戸である。地山Iの淡青灰色砂質粘土より掘り込んで、地山IIの灰青色砂質土を底部とする。埋め土は、およそ5層に分かれ第①層茶褐色粘質砂土、第②層暗茶褐色粘質土、第③層黒灰色粘質砂土、第④層暗青灰色砂質土、第⑤層暗黒灰色粘質土である。このうち第②・③層に若干の遺物が含まれていた。後述するように、これらの遺物は、およそ8世紀後半代のものであり、そのころに埋没したことがうかがえる。

SE2 直径3.4m、深さ1.0mの円形素掘



第3図 調査区配置図



第4図 道構配図

りの井戸と考えられる。耕土・床土直下の包含層上面から切り込み、地山Ⅲを底部とする。埋め土は、調査中の崩壊が激しく、図示に到らなかったが、およそ3層に分かれ、第①層茶褐色粘質砂土、第②層暗青灰色砂質土、第③層暗黒灰色粘質土であった。第③層から、遺物が若干出土しており、おおよそ12世紀代の所産と考えられる。

### (2) 土塙

調査区の南よりで、小規模な土塙4基を検出した。南からSK1～SK4とし、埋め土、遺物に類似が多く、同時期、およそ7世紀後半代の所産と考えられる。

**SK1** 調査区の南端で検出した径0.8mの不整隋円形の土塙、深さは0.5mと浅い。埋め土は、①黒灰色粘質砂土 ②暗茶褐色粘質砂土 ③暗黒灰色粘質土のおよそ3層に分かれ、第③層に若干の土器片があるほか、性格は不明。

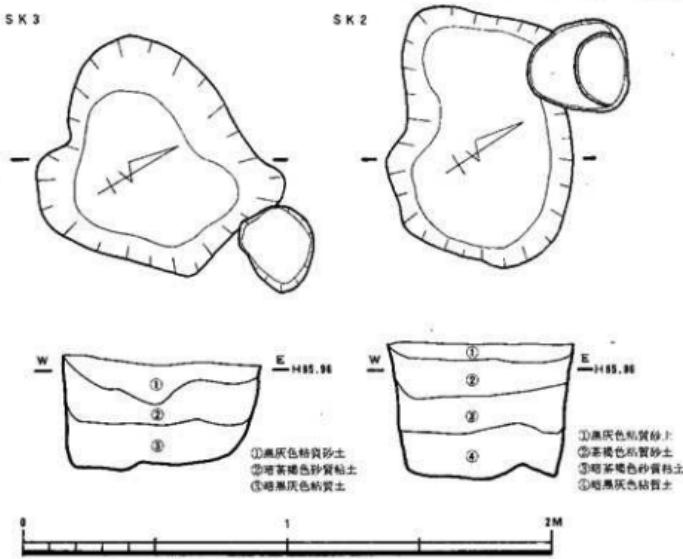
**SK2** SE1の北に接して所在する、長辺1.0m、短辺0.7m、深さ0.5mの隋円形の土塙である。埋め土はSK1と同様で、出土遺物は、ほとんどなかった。

**SK3** SK2の北に接して所在する、長辺0.9m、短辺0.95m、深さ0.4mの不整円形の土塙である。埋め土は、SK1・SK2と同様で、第②層の暗茶褐色粘質土から若干の土器片が出土している。

**SK4** SD3に切られ、南に接して所在する推定長辺1.3m、短辺1.1m、深さ0.4mを有する不整円形の土塙である。SK1～SK3と同様の埋め土で、第②層に若干の須恵器を含んでいた。

### (3) 溝

浅い溝状の造構4条が検出されている。いづれも包含層と同じ埋め土で、一部は地形の凹凸を



第5図 SK3, SK2平面・断面実測図

示すものかも知れない。

S D 1 調査区の南から北に流れる。幅 0.7 m、深さ 0.2 m の小溝で、中央付近で消滅している。ほぼ暗灰褐色を呈する砂質粘土上の 1 層よりなる。遺物はあまり多くなかった。

S D 2 調査区の西側を斜めに南北流する幅 3 m 以上、深さ 0.3 m の溝状遺構、埋め土除去後ピット多数を検出しており、浅い落ち込みの可能性が強い。多くの遺物が出土している。

S D 3 調査区のほぼ中央を東西流する皿状の底をもつ溝、幅 0.7 m、深さ 0.4 m をはかり S D 2 を切り込んでいる。若干の土器類が出土した。

S D 4 調査区の北側を南西から北東へ流れる小さな溝、幅 0.5 m、深さ 0.3 m をはかり、S D 2 に切られている。遺物はほとんどなかった。

#### (4) ピット

全域で多数のピットを検出した。いづれも建物に伴う柱穴の可能性が強いが、まとまるものはなかった。ほとんどが明確な掘り方を持っておらず、円形素掘りの柱穴であった。なかに柱痕を残すものもあり、上述のとおり暗紫色砂泥を充填するもの（包含層上面より切り込む）と、暗茶褐色砂質粘土を充填するものがあり、時期差を示している。

## IV 遺 物

出土遺物は、須恵器、土師器、黒色土器で、大部分が包含層より出土したものである。須恵器は、7～8世紀のものが中心で、土師器、黒色土器は12世紀代のものである。

#### (1) 須恵器

須恵器には、环甌、环身、瓶、壺、甕、高坏などがある。

环甌 环蓋は、宝珠形のツマミの有無によって、大きく A、B の 2 種に分けられるが、宝珠形のツマミを有する B は、口縁端部の形態により、B-1～B-III の三種に細分される。A は陶邑 TK 209・217 (II-6) に、B は同 MT 21・TK 7 (IV-1・2) に類似が認められる。  
(注3)

环身 丸底で立上りを有するものを A、平底のものを B、高台を有するものを C とした。そして A は、大小および立上りの形態により、I～III に細分され、B も底部の形態により、I～III に細分される。A は TK 217 (II-5・6) に、B は TK 217 (III-1・2) に、C は TK 7 (IV-2・3) に、それぞれ類似品があり、およそ 7～8 世紀の所産と考えられる。

(注4)  
高坏 环部口縁の立ち上がりが低く、細い脚部に、2段の透しを有するものが 1 点出土した。陶邑 TK 209 (II-5) に類似品のあるものである。およそ 7 世紀前半代のものであろう。  
(注5)

瓶 S D 2 より、細長い頸部にラッパ状に開く口縁を有し、階円形の体部を有するものが 1 点出土した。陶邑 TK 217 (III-1) に類似品がみとめられる。

(注6)  
壺 口縁部が短かく外湾する小型壺と、底部破片を図示した。陶邑 MT 21 (IV-1) に類似品のあるものである。  
(注7)

甕 口縁の形態などから A～C の 3 種に分類され、A は、ゆるやかに外反する頸部に、口縁端部を外側に折り曲げたもの、B は、ゆるやかに内湾し、頸部は「く」字に屈曲する。C は、外湾

して短かくのびる口縁端部を、やや上下に肥厚させたもの、ほかに底部破片が若干であった。陶邑TK217(II-6・III-2)に類品がある。

(注8)

(2) 土師器

土師器には、奈良時代に属すると思われる坏、皿、壺、高坏、瓶、盞などと、鎌倉時代に属すると考えられる皿がみられる。

坏 平底の底部に外傾して立ち上がる口縁がつく。口縁部は屈曲し、端部を内側に巻き込む。内外面ナデ調整。

皿 皿には、扁平なAとやや深いBがあり、Aには、口径の大小により、A-I、A-IIの二種が認められる。Aは平底でやや外傾する口縁部をもち、その端部を内側に巻きこんでいる。Bは、平底で、口縁部は、外傾して、内湾気味にのびる。

壺 ゆるやかに内湾する体部に、やや外反する口縁部をもつ。

高坏 浅い坏部で、口縁部は、わずかに外反して、端部は屈曲して、内側に巻き込む。脚部は面とりをしているが、ハクリして不明瞭、ゆるやかに開く裾がつく。

壺 貞口壺の口縁部と、底部と思われる破片がみられる。以上の坏、皿、高坏などは、平城宮跡SK820、SK219、SK2113に類例のあるもので、おおよそ、8世紀後半代のものであろう。

(注9)

壺 丸底ではほぼ円形の体部を短かい口縁のつくAとほぼ同形で「く」字に外反する口縁を有するB、大形で「く」字に外反する口縁のCがあり、いづれも内外面をハケ目調整する。Bは、口縁を内側に巻き込む、B-Iと、巻き込まず、口縁外面に沈線をめぐらすB-IIに細分される。A・Bは、8世紀代に通有のものである。

(注10)

皿 古代末～中世に通有なもので、久野部七ノ坪例にならって、A～Dの4種に分類され、口径の大小によりさらに細分される。

(3) 黒色土器

黒色土器A類の壺がかなり出土している。

壺 口縁の内反するものと外反するものがあり、底部も高台の形態によりa～cの3種に分類される。おおよそ鎌倉前期に類似の多いものである。なお、底部に「+」などのヘラ記号があり、注目される。

(4) その他

ほかに綠釉の壺1点、土師質の土罐1点が出土している。

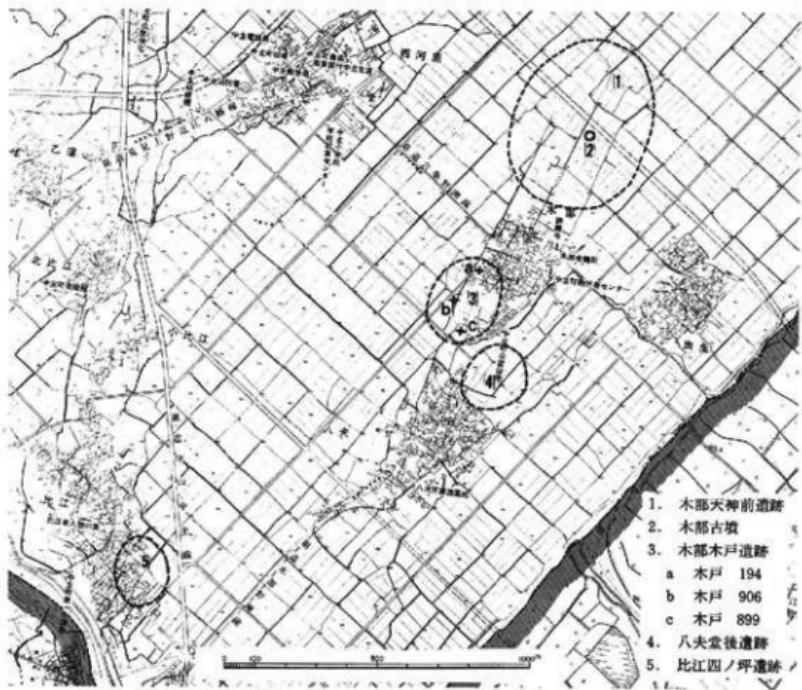
## V む す び

以上概略述べた通り、今回の調査では、110m<sup>2</sup>という小面積であったが、井戸2基、土塹4基、ピット多数、溝など、奈良前期および鎌倉前期の遺構とそれに伴う遺物が出土し、大きな成果を上げた。ただ、遺構の存在は、予想通りであったものの、小面積ということもある、その全貌を解明することは、きわめて困難であった。しかし、今回の調査によって、少なくとも本遺跡が奈良時代および鎌倉時代の集落の中心部であったことは明らかになり、従来不明な点の多かった中主町における集落遺跡の実態に、貴重な資料を追加するものと言えよう。したがって、この地域についてでは、今後、遺跡の保存について十分な配慮が必要と言えるであろう。

## 付篇 周辺地域の出土遺物

従来、中主町内については、遺跡の分布調査が十分でなく、特に集落跡の所在は、ほとんど明瞭でなかった。ところが、昭和48年ごろから、同町内における「は場整備」事業が頻発して、各所で水路等の掘削がなされ、各地で遺物の出土が報じられた。大部分の場合、工事完了後であったため、十分な調査はなされていないが、ここに報告するのは、中主町文化財審議委員、西本正明氏が、その前後に採集されたものと、県教委が緊急現地におもむいて、採集したものである。これらによって、本遺跡周辺の様相が明らかになるとともに、当該遺跡の保存、活用の資料にしたいと考える。

**経過** これらの遺物は、昭和48年～昭和51年の間に、中主町木部、八夫など三ヶ所で採集されたものであり、その出土層位は明確でない。ただ、いづれの場合も、「は場整備」の排水路掘削部分より出土をみたものである。以上の点より、木部から八夫にかけて、遺跡の広く分布していることが理解される。



第6図 周辺地域出土位置図

**遺物** 上述のとおり、採集品のため、出土層位もあいまいであるが、古式土師器をはじめ、古墳時代～奈良時代の須恵器、平安時代～鎌倉時代の土師器、黒色土器などが出土している。

〔古式土師器〕 図示し得たのは、高環の脚部1点のみであった。ほかに甕などもみられる。

〔須恵器〕 坯蓋、坯身、高环、鉢、甕などの出土がみられる。坯蓋に扁平な宝珠形のツマミがつき、鉢などの形態からみて、陶邑TK 209・MT 21・T K 7に類似の多いものである。(注13)

〔土師器〕 土師器小皿が若干出土している。いづれも、平安後期～鎌倉期に通有なものである。(注14)

〔黒色土器〕 A類の塊が数点出土している。久野部七ノ坪例に準じるなら、いわゆるC・Dタイプで、高台は逆台形の低いものである。鎌倉前期に通有なものである。(注15)

**小結** 以上、概略述べたように、従来、不分明な点の多かった中主町内の各地点において、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺物が広範囲に分布することが明らかになった。このことから木部を中心に八夫、虫生にかけて、中主町内の中心的な集落跡が埋没していることが確実になったのであり、今後この地域の保存・研究に、十分なる注意が提起されることになったのである。

註

(1) 旧中里村に属したため、「中里古墳」とも呼ばれ、明治31年発掘された際、獸形鏡1面、劍、銅鈴各1点、管玉、白玉若干、馬具破片、須恵器の出土をみたという。(柴田実編「滋賀県史蹟名勝天然記念物観察」昭11 滋賀県)

(2) 付篇参照

(3) 田辺昭三「陶邑古窯址群Ⅰ」(平安学園考古クラブ、研究論集10、1966) 中村浩「陶邑Ⅲ」の編年案によれば、AはⅡ-6段階に類例がみえ、BはⅣ-1、2段階にみえる。

(4) 同上書によれば、AはⅡ-5、6、BはⅢ-1、2、CはⅣ-2、3に類似品がみえる。

(5) 同上書によれば、Ⅱ-5段階に類例が認められる。

(6) 同上書によれば、Ⅲ-1段階に類例が認められる。

(7) 同上書によれば、Ⅳ-1段階に類例が認められる。

(8) 同上書によれば、Ⅱ-6、Ⅲ-2段階に類例が認められる。

(9) 奈良國立文化財研究所編「平城宮発掘調査報告書」II・IV (1962-1972)

(10) 注9)と同じ。

(11) 大森信弘ほか「久野部道路発掘調査報告書一七ノ坪地区」(滋賀県教育委員会 1977)

(12) ちなみに、昭和46年に改定された「滋賀県道跡目録一湖南地区」では、総計7遺跡、このうち集落跡は1遺跡のみであった。

(13) 注(3)と同じ。

(14) 注(10)と同じ。

(15) 注(10)と同じ。



C 123



C 133

第7図 周辺地城出土土器

木部天神前遺跡の出土遺物

奉注記以外包含器

器種	器 形	図版番号	法 量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備 考
須	A	C 001	口径 15.2	・天井部はわずかに内湾気味で、口縁部は外反してのび端部を丸く収める。 ・体部と口縁部の境界は不明瞭な凹線によってわずかに判明する。	・内外面横ナデ調整	・暗灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (C 001-P 48) (C 002-SD 3)
		C 002	口径 12.8			
环	B-I	C 003	口径 15 15.8	・天井部から口縁部にかけはぼ扁平なつくりで、中央に扁平な宝珠形のつまみを有す。 ・口縁端部は下方へ短く屈曲し先端にぶい稜をなす。	・内外面横ナデ調整	・淡灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (C 003-P 48)
		C 005	口径 13.0 器高 2.5			
惠	B-II	C 006	口径 15.6	・天井部は扁平なつくりで、口縁部との境界は段をなす。 ・口縁端部は、鋭く内反して着地する。 ・天井部中央に扁平な宝珠形のつまみ。	・内外面横ナデ調整	・青灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (C 006-P 48)
		C 007	口径 13.2			
蓋	B-III	C 008	口径 13.8~16.6 1 器高 1.9 (C 009)	・天井部は扁平なつくりで、口縁はゆるやかに内湾して、端部は屈曲する。 ・天井部中央に扁平な宝珠形のつまみ。	・内外面横ナデ調整 (C 008-P 80)	・青灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 010				
器		C 011		・扁平な宝珠形のつまみ。		・淡灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 012				
环	A-1	C 013	口径 11.0	・口径の小さい扁平な浅い体底部 ・口縁部立上りは、いずれも強く内傾し、低い。 ・受部は湾曲気味に外上方へのびる。	・内外面横ナデ調整	・暗灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (C 016-SD 1)
		C 016	口径 15.0			
身						

器種	器 形	図版番号	法 (cm) 品	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
頭	A-II	C 017	口径 10.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦口径の比較的大きい</li> <li>◦杯身で体底部は丸味を有し、やや深いものであるが、C 020</li> <li>◦C 021は、底部がやや扁平気味で浅い</li> <li>◦つくりである。</li> <li>◦口縁部立上りは、いずれも強く内傾し、低い。</li> <li>◦受部は、湾曲気味に外上方へのびる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> <li>(C 019-SK2)</li> <li>(C 020-SD3)</li> <li>(C 021-P24)</li> </ul>
		/	/			
		C 021	口径 12.8			
	B-II	C 022	口径 8.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦小型化は著しく体底</li> <li>◦部は、丸味をもう浅い。</li> <li>◦口縁部の内傾度はさ</li> <li>◦らに強まり端部を丸く収める。</li> <li>◦受部は水平または、</li> <li>◦外上方へ湾曲気味に</li> <li>◦のびる。</li> <li>◦C 023は、受部を強く外方へひき出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> <li>◦底部はヘラ切り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦C 022、C 026</li> <li>◦灰青色</li> <li>◦C 023、C 024、</li> <li>◦C 025 淡灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> <li>(C 023~C 025-P48)</li> <li>(C 026-SD3)</li> </ul>
		/	/			
		C 026	口径 14.8			
腹	B-I	C 207	口径 12.4 器高 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦底部はやや不安定な</li> <li>◦平底で丸味をもって</li> <li>◦体部へと続く。</li> <li>◦体部はほぼ直線的に</li> <li>◦外上方へのび、口縁</li> <li>◦端部を丸く収める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> <li>◦底部ヘラ切り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦淡灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> </ul>
	B-II	C 028	口径 17.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦底部は安定した平底</li> <li>◦で、底部から体部への屈曲は鋭い。</li> <li>◦体部はほぼ直線的に</li> <li>◦外上方へのび、口縁</li> <li>◦端部を丸く収める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> <li>◦底部はヘラケズリ不</li> <li>◦調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦青灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> </ul>
器身	B-III	C 029	口径 14.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦底部は安定した平底</li> <li>◦で体部はやや湾曲気</li> <li>◦味に外上方へのび、</li> <li>◦口縁端部をわずかに</li> <li>◦外反させ丸く収める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> <li>◦底部はヘラケズリ不</li> <li>◦調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦青灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> </ul>
			口径 12.2			
			底径 8.8			
	B-IV	C 031	口径 14.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦底部は平底で、丸味</li> <li>◦をもって体部へと続く。</li> <li>◦体部は直線的に外上</li> <li>◦方へのび、口縁端部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦内外面横ナデ調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦淡青灰色</li> <li>◦胎土 精良</li> <li>◦焼成 堅緻</li> </ul>

名稱	器 形	出版番号	法 (cm) 量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
須 身	C l	C 032	口径 13.2~14.8 高台高 3.0~4.5	・強く外方へ引き出 し上端部を平坦に收 める。		
		C 034	底径 9.2~10.8	・体部は直線的に外上方へのび端部を丸く 收める。 ・逆台形の不安定な高 台で、やや外傾し、 内先端で接するもの が多い。	・内外面横ナデ調整 ・貼り付け高台	・淡灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 035	底径 7.4~11.6 高台高 2.0~2.5	・逆台形の安定した高 台で、外傾する。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ナデ (C 038-SD2)	・灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 039 C 040	II径 12.0 口径 13.4	・体部はゆるやかに内 湾、II線部立上りは 強く内傾し、低い受 部は、短かくやや湾 曲して外上方へのび る。 ・脚部は細長く、ゆる やかに外下方へのび II線端部を短かく屈 曲させやや外反して 丸く收める。 ・脚部中位に2条の回 線、裾部に1条の回 線をめぐらす。 ・透しは2段で、上段 のそれは貫通せず、 2方にあけている。	・内外面横ナデ調整	・暗灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
高 壇		C 041		・頸部は長く、外上方 へのびる。 ・頸部と口縁部との境 は凸凹によって明瞭 な段をなし、口縁は さらに外反する。 ・II線部に1条 + $\alpha$ 頸部に2条の凹線を めぐらす。 ・胴部は中位に最大径 をもち、肩部と体部 下半に各々1条の沈 線をめぐらす。	・内外面横ナデ調整 ・体部外面下半に指押 え。	・暗黒青灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (SD 2)
壺		C 042	II径 11.6	・胴部中上位に最大径 を有する小型壺で、 口頸部は短かく外反 氣味で端部を丸く收	・内外面横ナデ調整 (SD 2)	・黒灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻

番号	器形	図版番号	法量(cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	
須恵器	壺	C 043	底径 10.2	・安定した平底 ・体部はやや湾曲して外上方へのびる。	・内外面横ナデ調整 ・底部はヘラ切り	・灰白色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻	
	頸	A	C 044 C 045	LI径 33.2 口径 35.2	・頸部はゆるやかに外湾して、LI縁部に至り、口縁端部を折り曲げ肥厚させる。 ・頸部上半に縱方向のヘラ描き沈線をめぐらせ、その上に2条を単位とした凹線を6条めぐらす。 (C 044)	・外面下半横ナデ調整及び指押え ・内面上半横ナデ調整 ・内面下半不定方向の指ナデ	・C 044 淡灰色の自然 C 045 暗青灰色 ・胎土 良好 ・焼成 堅緻
			C 046 C 047	LI径 18.2 口径 20.2	・体部はゆるやかに内湾、頸部は「く」字状に崩曲し、外湾して上方にのびる。 ・口縁部先端を外方に肥厚させ、先端を丸く收める。 ・C 042は、外方へ肥厚させると同時に内面にも抵抗する。	・口縁内外面横ナデ調整 ・体部外面は、ハケ日調整後ナデ ・体部内面は青海波文の叩きを残す。	・淡灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻 (C 047-SD2)
	壺	B	C 048	口径 13.6	・頸部は、急速に立上がり、外湾して短かくのびる。 ・口縁端部をやや上下に肥厚させる。	・LI縁内外面横ナデ調整 ・体部上半内面に叩きを残す。 (SD 2)	・暗灰色 ・胎土 良好 ・焼成 堅緻
	器	底	C 049	底径 4.2	・やや凹底気味の底部	・内外面横ナデ調整	・青灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
土師器	壺	H 050	口径 20.2	・底部は平底で、体部は内湾して、やや斜方向に立ち上がる。 ・口縁部は外反し、端部を内側に折り曲げ丸くおさめる。 ・口縁内側に1条の沈線がめぐる。	・内外面横ナデ調整	・赤褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
	皿	A	H 051 H 056	口径 13.4 20.0 器高 2.35	・底部は、平底で体部は内湾気味、口縁部はやや強く外反し、端部を丸く收める。	・内外面横ナデ調整後指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好 (H 052-SK5)

器種	器 形	図版番号	法 (cm)量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考	
土	环	B	H 057 H 058	口径 12.6 口径 12.4	・口縁部内側に 1 条の 沈線 ・底部は平底気味で、 体部は直線的にのび 上がり、端部を丸く 収める。	・内外面横ナデ調整後 指押え (H 057-P 71)	・( H 055-SD2 )
						・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
	皿	C	H 059	口径 12.8	・体部はやや湾曲しな がら外上方へのび口 縁部はほぼ直立して 端部を丸く収める。	・内外面指押え	・淡赤褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
塊	底 部	H 060 H 061	口径 13.0 口径 12.2	・体部は、ゆるやかに 内湾し、口縁部はわ ずかに外反して端部 を丸く収める。	・内外面横ナデ調整後 指押え (H 061-SD2)	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
高 环	H	H 062	口径 24.8	・体底部はやや扁平な つくりで、やや屈曲 して口縁部が続き、 端部を内側に折り曲 げて丸く収める。	・内外面指押え	・赤褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
	A	H 063		・脚部は細長くわずか に外開きに下彎し縫 部でさらにうしろへ 開く。	・脚部外側へラケズリ 指押えあり ・内面指ナデ	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
壺	A	H 064	口径 8.4	・頸部は、短かく外湾 してのび端部を丸く 収める。	・内面指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
	底 部	H 065	底径 6.6	・やや不安定な平底の 底部である。	・外面指押え	・赤褐色 ・胎土 1 mm 大 の砂粒合 ・焼成 良好	
甌	A	H 066	口径 19.2	・体部は丸味を呈し、 頸部は短かく外湾し て、端部を丸く収め る。	・内外面横ナデ調整 ・体部内外面指押え (P 106)	・淡茶褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好	
	B-1	H 067 H 068	口径 14.6 口径 13.2	・体部は、ゆるやかに 内湾し、頸部は外湾 してのび口縁は「く」 字に屈曲する。 ・端部を内側に折り曲 げ丸く収める。 ・口縁部内側に 1 条の 沈線をめぐらす。	・内外面ハケ目調整 後ナデ及び指押え ・口縁部内外面横ナデ 調整	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好 (H 068-SE1)	

器種	器 形	出版番号	法 (cm)量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
土 壺 師	B-II	H 069	口径 14.6	・体部は丸味を呈し、 ・頸部は強く「く」字 形に屈曲し、口縁部 はやや外湾する。外側 に1条の沈線をめぐ らす。	・内外面ハケ目調整 後ナデ及び指押え ・後縁部内外面横ナデ 調整	・深茶褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 071	18.8			
	底 部	H 072		・急速に溝曲して立ち 上がる把手。 ・体部はゆるやかに内 溝して底部に至る。	・体部内外面ハケ目調 整 ・把手外面に指押え (P 48)	・茶褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	C	H 073	口径 27.2	・「く」字形の単純口 縁。 ・H 058は、外面にや やふくらみをもち競 をつくる。	・内外面ハケ目調整後 ナデ及び指押え (H 074-SD3)	・淡赤褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 074	口径 25.6			
	底 部	H 075	底径 8.4	・やや不安定な平底で 体部への屈曲は丸味 をもつ。		・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	A	H 076	口径 9.4	・扁平な小皿で、口縁 端部を内側に折り曲 げる。	・粘土板成形 ・内外面指押え (H 077-SK1)	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 077	口径 9.2			
	B	H 078	口径 9.4	・底部は丸底で、体部 はゆるやかに内湾し、 口縁部はわずかに外 反し、端部を丸く収 める。	・粘土板成形 ・外面指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 079	口径 9.2			
器皿	C	H 080	口径 10.8	・底部はやや上げ底氣 味に体部はゆるやか に内湾し、口縁部は わずかに外反、端部 を丸く収める。	・粘土板成形 ・内外面指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 081	口径 9.6			
	D	H 082	口径 10.4	・底部は平底気味で体 部は直線的に外上方 へのび端部を丸くお さめる。	・粘土板成形 ・内面指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
		H 083	口径 10.4			
	D	H 084	口径 8.0	・底部は、丸底氣味 で、体部はゆるやか に内湾、口縁部は外 反して、端部を丸く おさめる。	・粘土板成形 ・内外面ナデ調整後指 押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	H 086	10.8				

器種	器 形	図版番号	法 (cm)量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
土 師 器	D	H 087	口径 7.6 器高 1.5	・底部は、丸底で体部 は直線的に外上方へ のび端部を丸く收め る。	・粘土板成形 ・内外面指押え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	A	H 088 l H 090	口径 13.0 l 15.6	・体部は、ゆるやかに 内湾し、口縁部は外 反して端部を丸く收 める。	・粘土板成形 ・内外面横ナデ後指押 え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	B	H 091 H 092	口径 16.8 口径 14.0	・底部は安定した平底 やや凹気味のものも ある。(H 091) ・体部は、ゆるやかに 内湾し、口縁部は強 く外反して端部を丸 く收める。	・粘土板成形 ・内外面横ナデ後指押 え	・淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
黒 色 塊	A	B 093 l B 096	口径 14.6~17.6 高台高 0.8 器高 4.3	・体部はゆるやかに内 湾し、口縁部はやや 内反、端部を丸く收 める。 ・口縁部内側に一条の 沈線。 ・逆台形の安定した高 台で、外傾する。	・粘土紐巻き上げ。 ・内外面指押え ・内面にヘラミガキを 施す。	・内面、一部外 面黒色 ・外面、淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	B	B 097 l B 100	口径 12.0 l 15.2	・体部はゆるやかに内 湾し、口縁部はわず かに外反して端部を 丸く收める。 ・口縁部内側に一条の 沈線。	・粘土紐巻き上げ。 ・内外面指押え ・内面にヘラミガキを 施す。	・内面、一部外 面黒色 ・外面、淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	a	B 101 l B 106	底径 4.8~11 高台高 0.4~1.1	・断面逆三角形の安 定した高台でやや内 傾する。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ナデ及び ヘラミガキ (B 101-SD3)	・内面 黒色 ・外面 淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
土 器	b	B 107 l B 113	底径 5.2~7.2 高台高 0.8~0.95	・逆台形の高台で外 傾する。 ・外面下端を斜めに削 るため内面で接地す る。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ナデ及び ヘラミガキ (B 108-SK5) (B 110-SD3)	・暗茶色 ・胎土 良好 ・焼成 良好
	c	B 114 l B 117	底径 4.4~6.8 高台高 0.5~0.8	・逆台形の安定した高 台で、強く外傾する ものもある。 ・底部外面にヘラ沈線 による印のあるもの もある。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ナデ及び ヘラミガキ	・内面 黒色 ・外面 淡褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好

器種	器 形	国版番号	法 (cm)量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
軸 輪	塊	G 118	底径 8.6 高台高 0.8	・逆台形の安定した高台で、やや内傾する。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ナデ	・緑黄色の釉 ・胎土 良好 ・焼成 良好
土 篩 器	土 篩	H 119	直径 2.0 長さ 3.5	・やや中ぶくれの柱状を呈す。 ・直径 1.0 cm の円孔を穿つ。	・手づくね	・灰褐色 ・胎土 良好 ・焼成 良好

周辺地域の出土遺物 (E020 木戸899 C121~C125 木戸194 H126~C132 木戸906 C133~C135 八夫堂後)

器種	器 形	国版番号	法 (cm)量	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
古式 土 篩 器	高 环	E 120		・大きく「ハ」字状に開く脚部で、中空のもの。	・外面ヘラ削り ・内面ナデ	・淡茶褐色 ・胎土 細砂含む ・焼成 良好
須	环	C 121	口径 15.8	・扁平な大井部及び体部に、やや内湾気味に下方に折曲げた口縁部がつく。	・内外面横ナデ調整。 ・天井部外面はヘラケズリ後仕上げナデ	・灰白色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
惠	高 环	C 122		・ゆるやかにロート状に開く脚部で中空である。 ・脚部上位に3個の孔を穿つ。	・脚部にハケ目調整 ・内外面横ナデ	・黒灰色 ・胎土 砂粒含む ・焼成 堅緻
器	鉢	C 123	底径 8.2	・不安定な平底で、体部は屈曲して外上方へのびる。 ・体部中位に2条の沈線。	・粘土紐巻き上げ。 ・内外面横ナデ	・暗黒灰青色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
	壺	C 124 C 125	口径 12.2 ~14.4	・口縁部は、外上方にのびる部を内外両面に拡張する。	・内外面横ナデ調整	・黒灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
土 篩 器	皿	H 126 H 127	口径 9.0 器高 2.0 口径 9.0 器高 1.5	・底部は丸底で、体部はゆるやかに内湾し口縁部はわずかに外反。 ・底部は上げ底で体部は直線的に外上方へのび端部を丸く收める。	・粘土板成形 ・内外面横ナデ調整 ・粘土板成形 ・内外面横ナデ調整	・淡褐色 ・胎土、焼成 良好 ・淡褐色 ・胎土、焼成 良好

器種	器 形	因数番号	法 (cm) 管	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考
黒 色 塊 土 器	C	B 128	口径 16.0	・体部は、ゆるやかに内湾し、端部を丸く收める。 ・口縁内側に 1 条の沈線	・粘土紐巻き上げ。 ・内面ヘラミガキによる暗文 ・外面指押え。	・黒灰色 ・胎土、焼成良好
	D	B 129	口径 16.0	・体部は、ゆるやかに内湾し、口縁部は外反して端部を丸く收める。	・粘土紐巻き上げ。 ・内面ヘラミガキによる暗文 ・外面指押え。	・黒褐色 ・胎土、焼成良好
		B 130	底径 5.6 高台 0.5	・低い逆台形の高台でやや外傾する。	・貼り付け高台 ・貼り付け後ヘラミガキ。 ・内外面指押え	・淡褐色 ・胎土、焼成良好
須 蓋		C 131	つまみ 径 3.6 高 0.9	・天井部は、やや丸味をもち、つまみはやや大きく、中央部が凹む。	・内外面横ナデ調整 ・天井部外面はヘラ削り後仕上げナデ。	・黒色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 132	口径 15.4	・扁平な天井部於び体部にやや内反気味に下方に折曲げたやや高めの口縁部がつく。	・内外面横ナデ調整	・暗灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
惠 坏 身 器	坏	C 133	口径 10.8 器高 3.4	・口縁部立上りは低く強く内傾する。 ・受部はやや湾曲気味に外上方へのび、端部を上方へ丸める。 ・体底部は比較的浅く扁平である。	・全体に外面横ナデ	・黒灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
		C 134	底径 10.4 高台高 0.5	・安定した低い逆台形の高台	・内外面横ナデ調整	・淡灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻
蓋		C 135		・宝珠形のつまみ		・灰色 ・胎土 精良 ・焼成 堅緻

# 図 版



1. 調査区全景（北より）



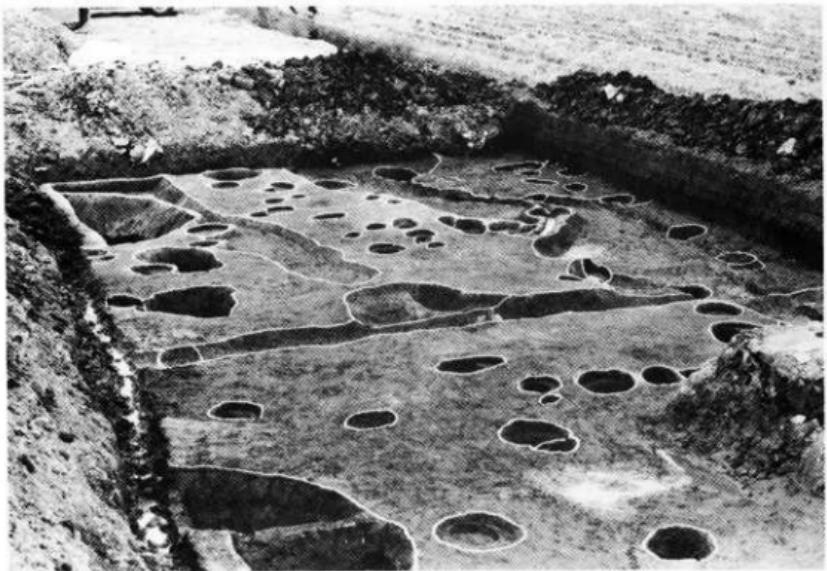
2. 調査区全景（南より）



1. 調査区近景（東より）



2. 調査区近景（東より）



1. 調査区南半部近景（北より）



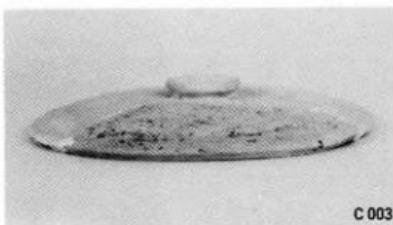
2. 調査区北半部近景（南より）



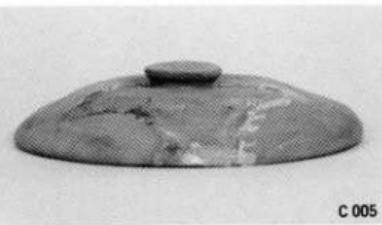
1. SEI SD1 SK2 SK3 近景（南より）



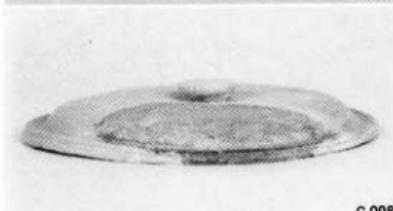
2. SD2 遺物出土状況



C 003



C 005



C 008



C 009



C 027



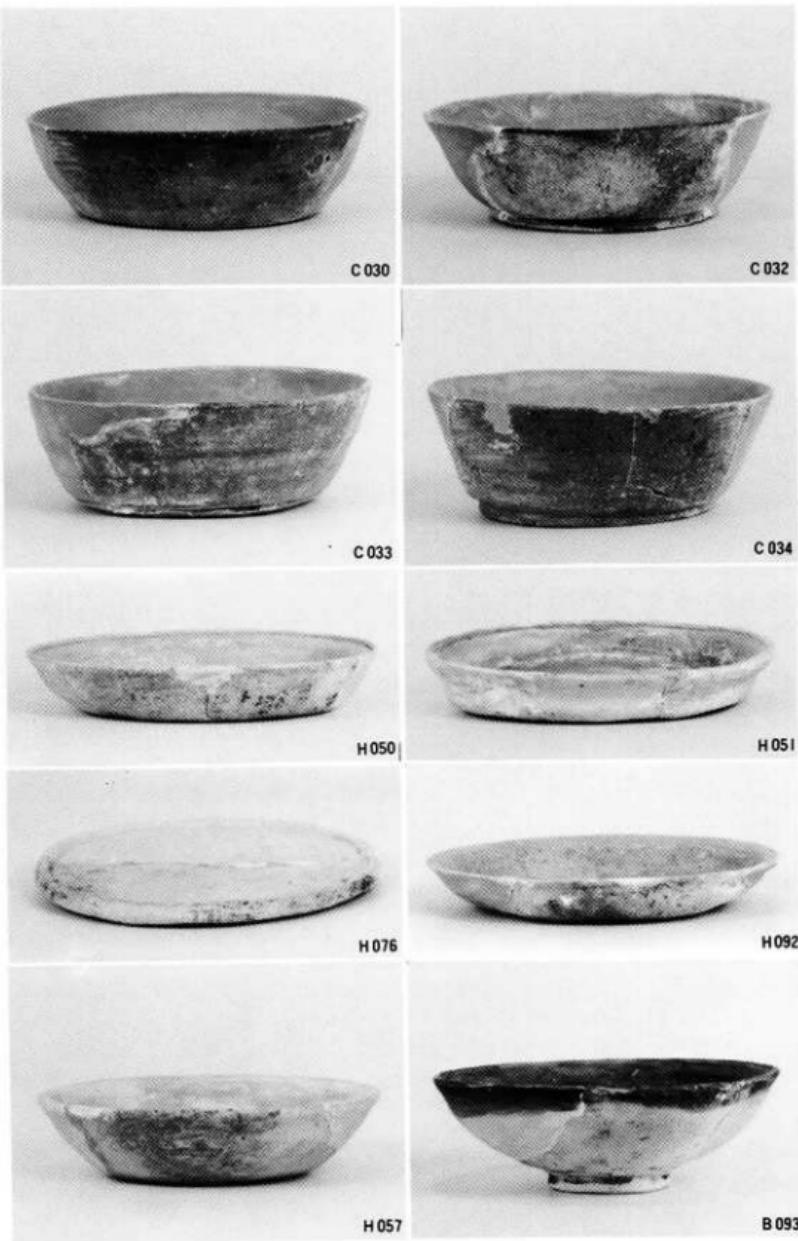
C 028

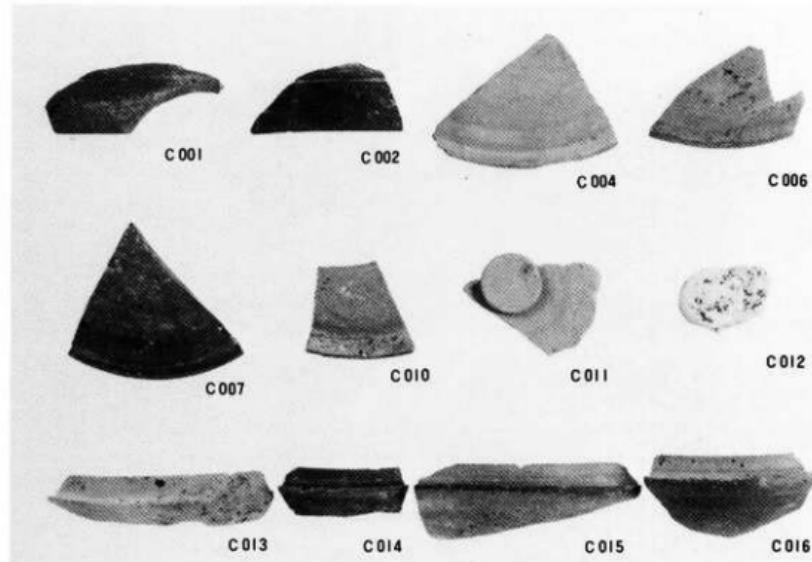


C 039

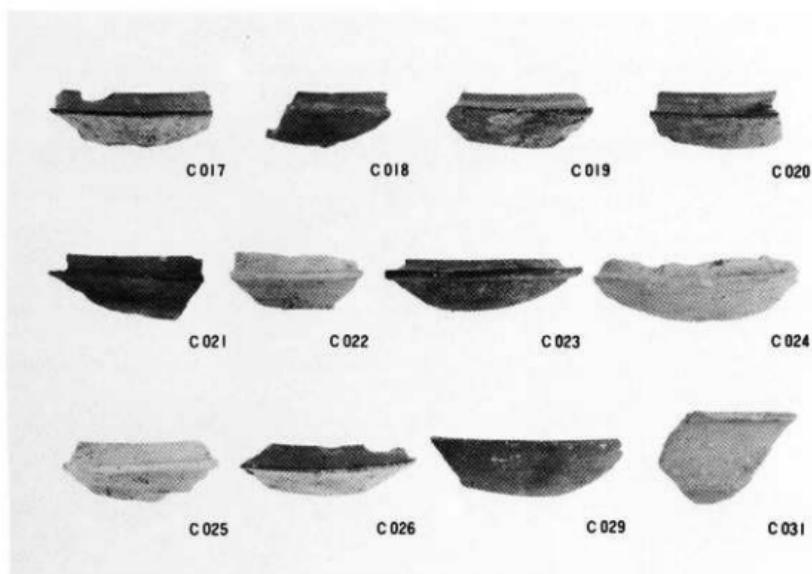


C 041

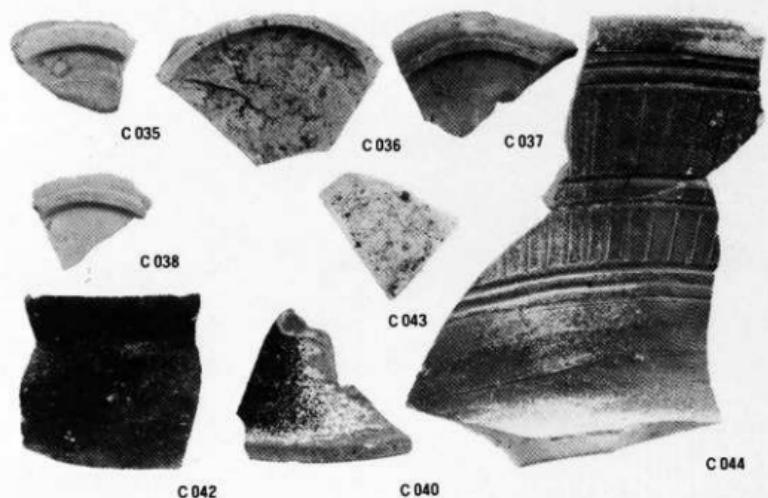




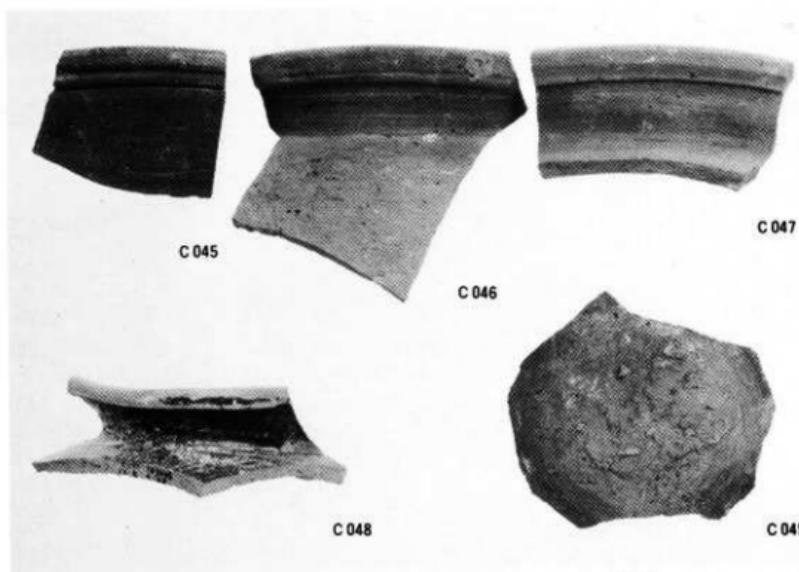
須恵器 (C 001 ~ C 016)



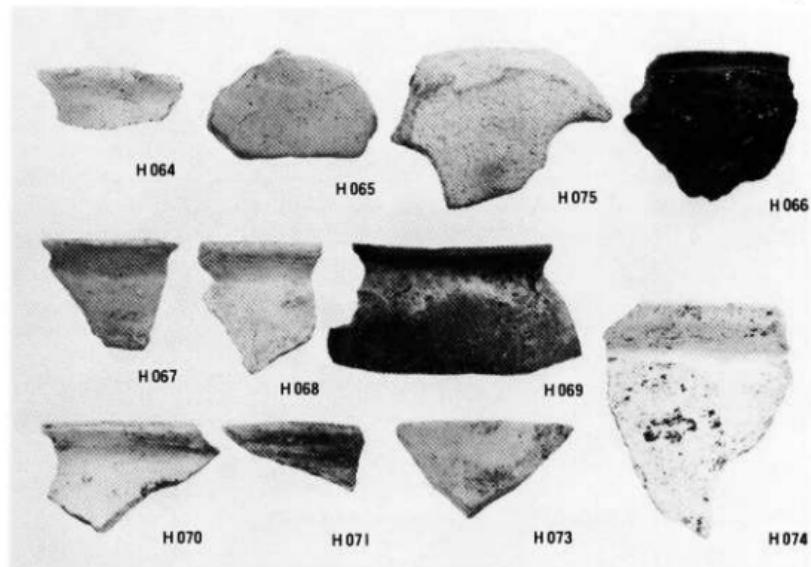
須恵器 (C 017 ~ C 031)



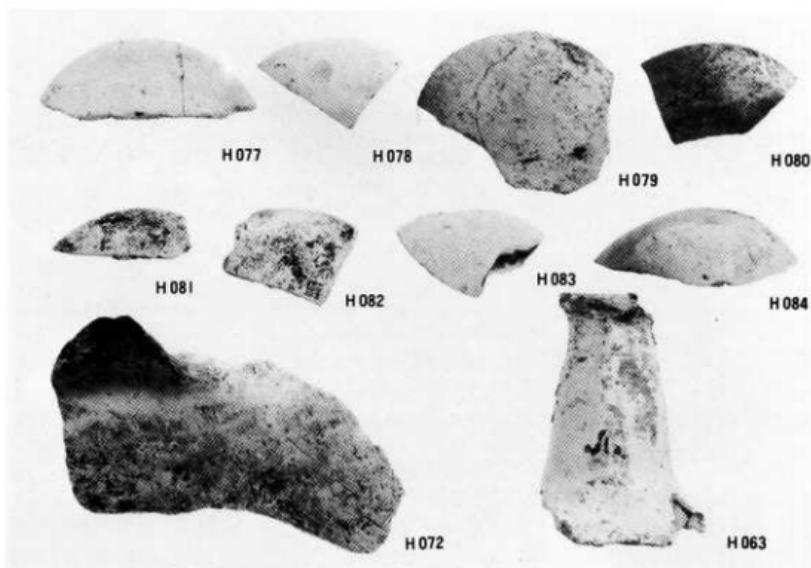
須惠器 (C 035 ~ C 044)



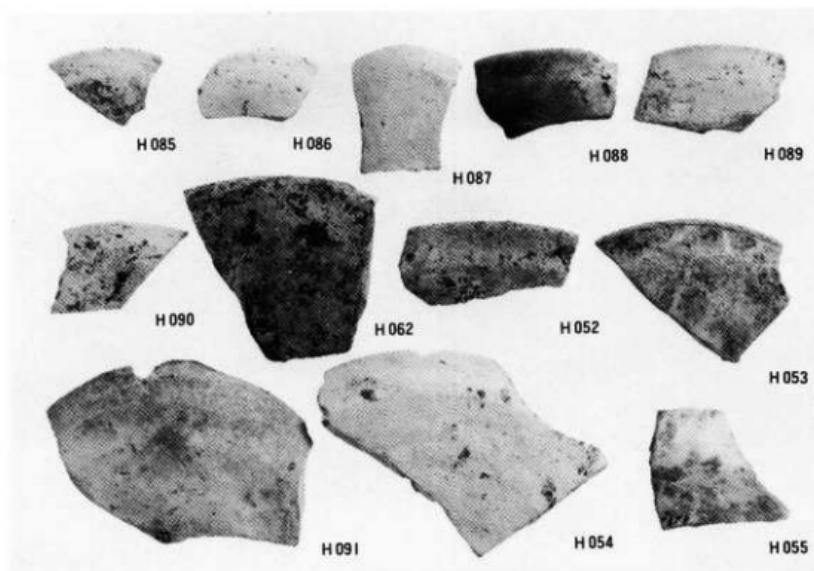
須惠器 (C 045 ~ C 049)



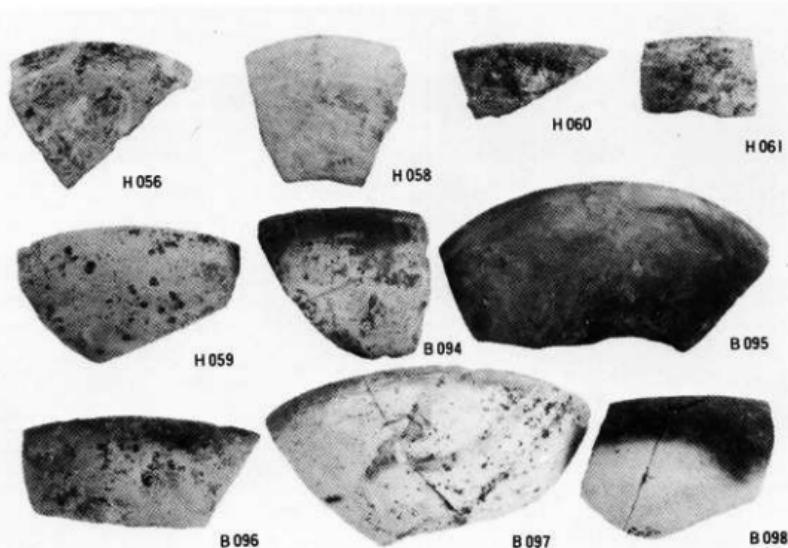
土師器 (H 064 ~ H 075)



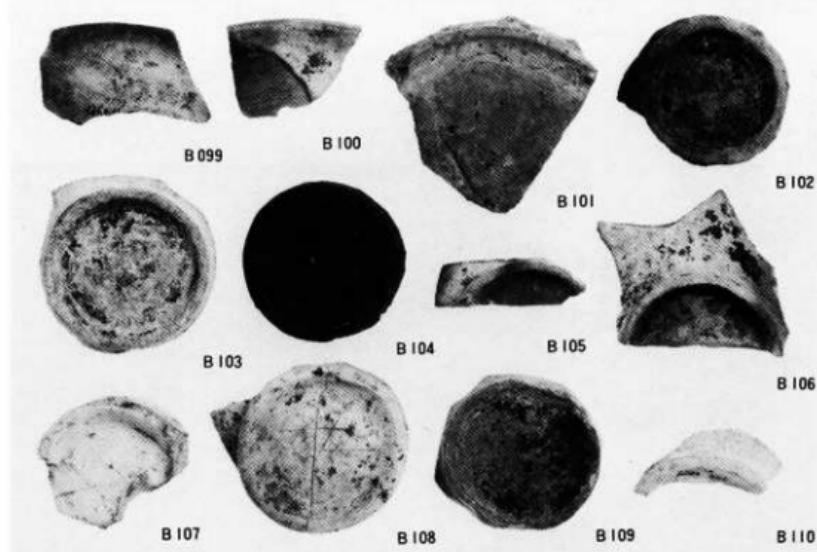
土師器 (H 063 ~ H 084)



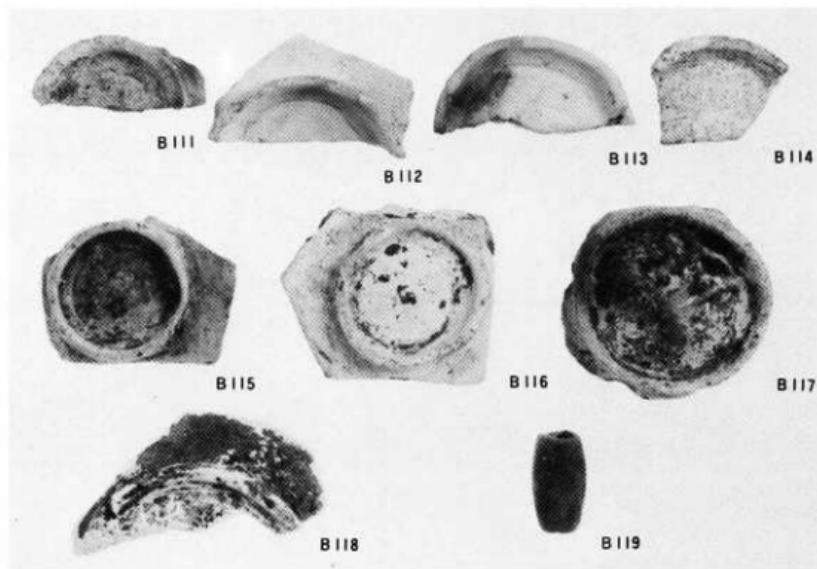
土師器 (H 085 ~ H 091, H 052 ~ H 062)



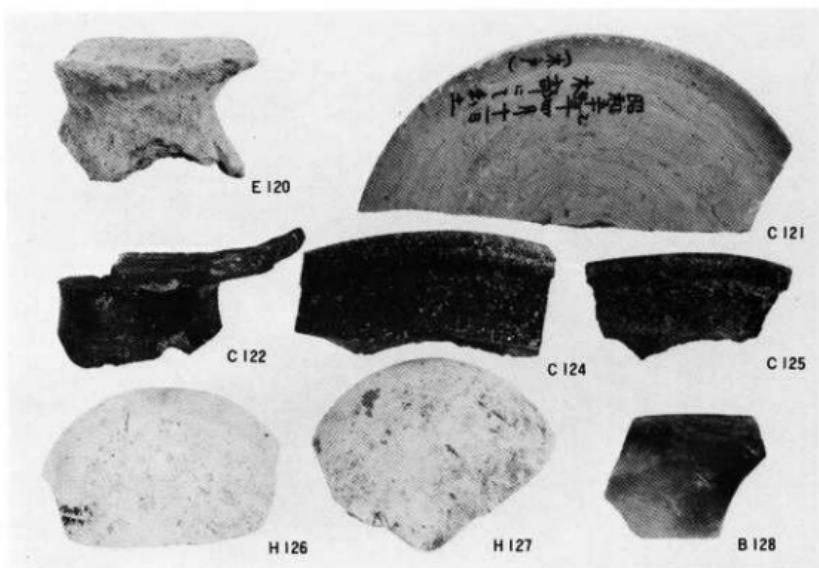
土師器 (H 056 ~ H 059), 黑色土器 (B 094 ~ B 098)



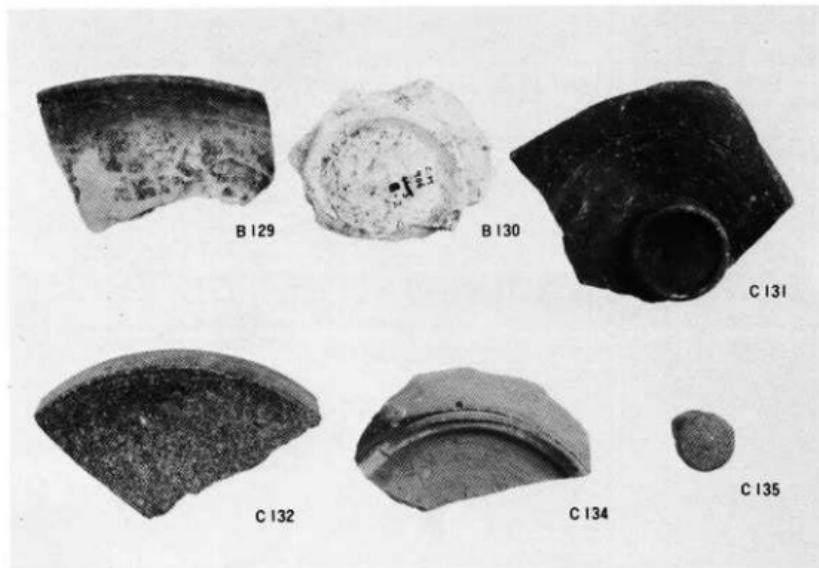
黑色土器 (B 099 ~ B 110)



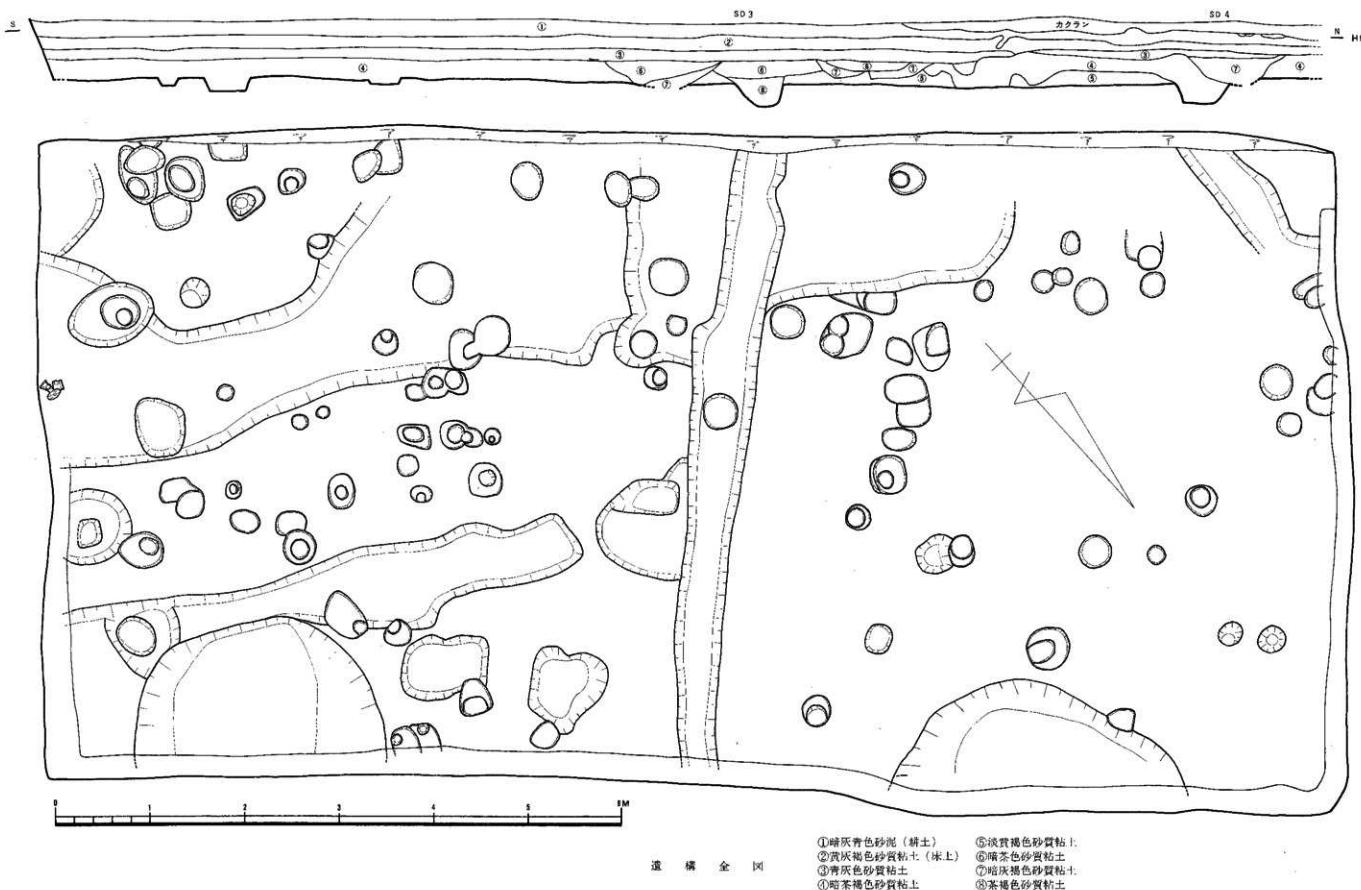
黑色土器 (B 111 ~ B 118), 土鍾 (H 119)



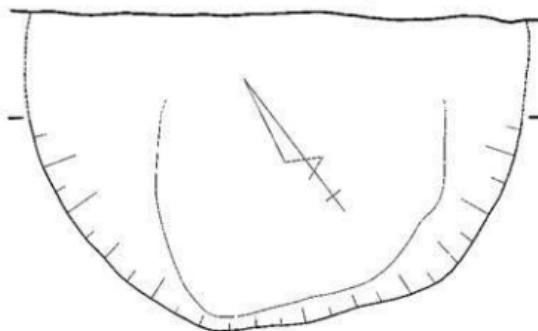
1. 周辺地域出土土器 (E 120 ~ B 128)



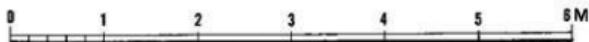
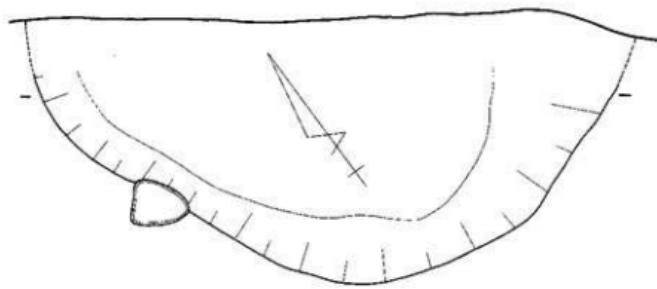
2. 周辺地域出土土器 (B 129 ~ C 135)



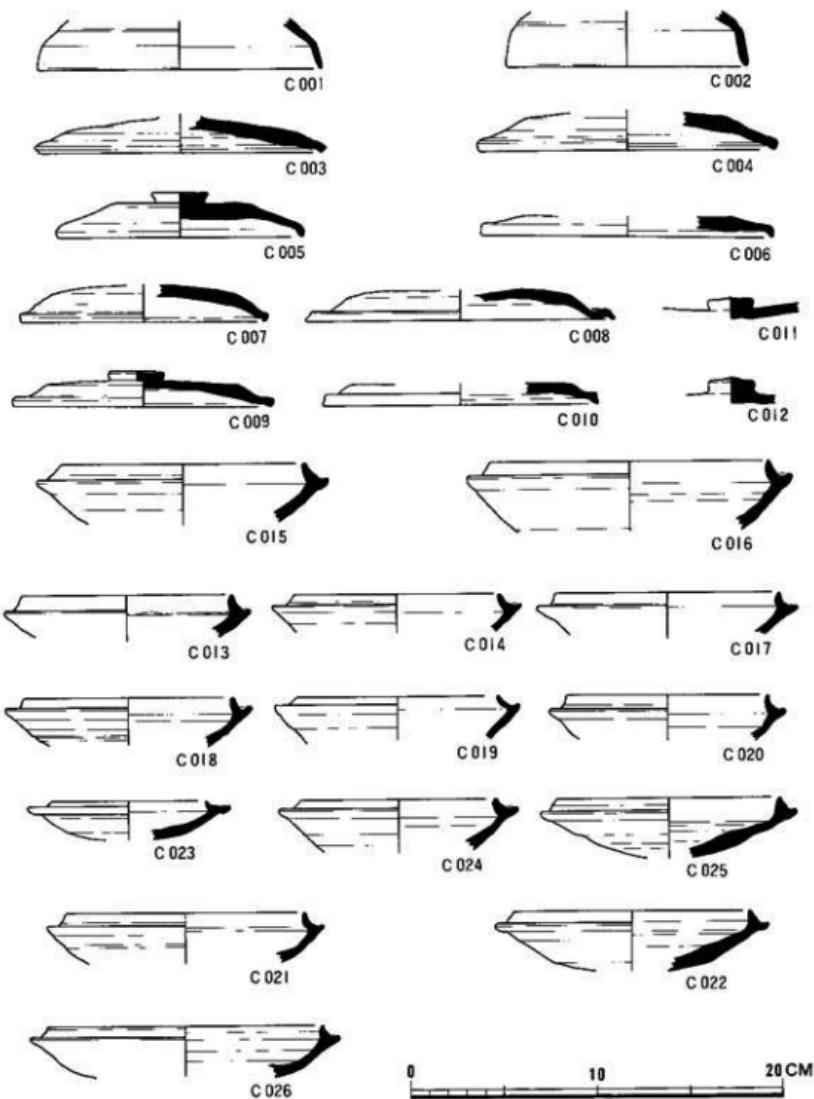
SE 1



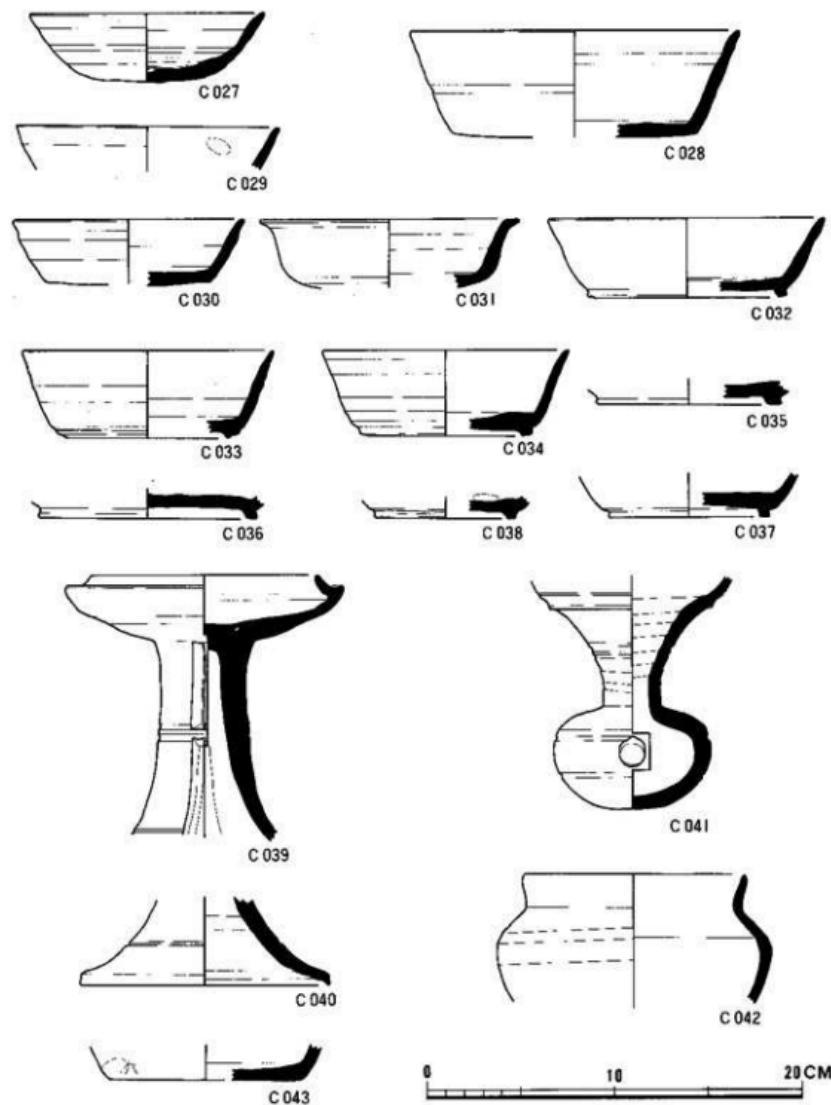
SE 2



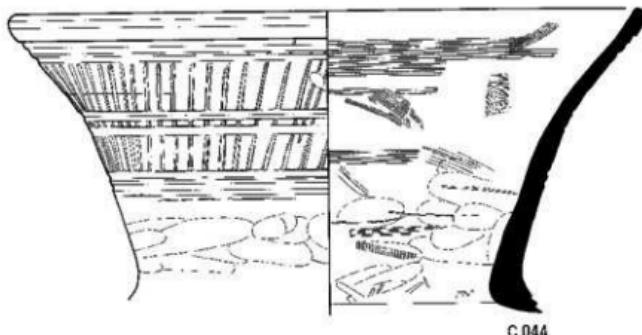
S E 1 · S E 2 平面·断面实测图



天神前遺跡出土土器 鎏金器(C001~C026)



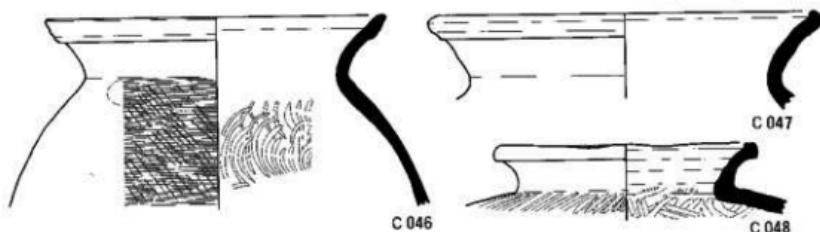
天神前遺跡出土土器 須恵器(C 027~C 043)



C 044



C 045



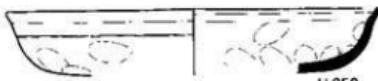
C 046

C 047

C 048



C 049



H 050



H 051



H 052



H 053



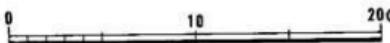
H 054



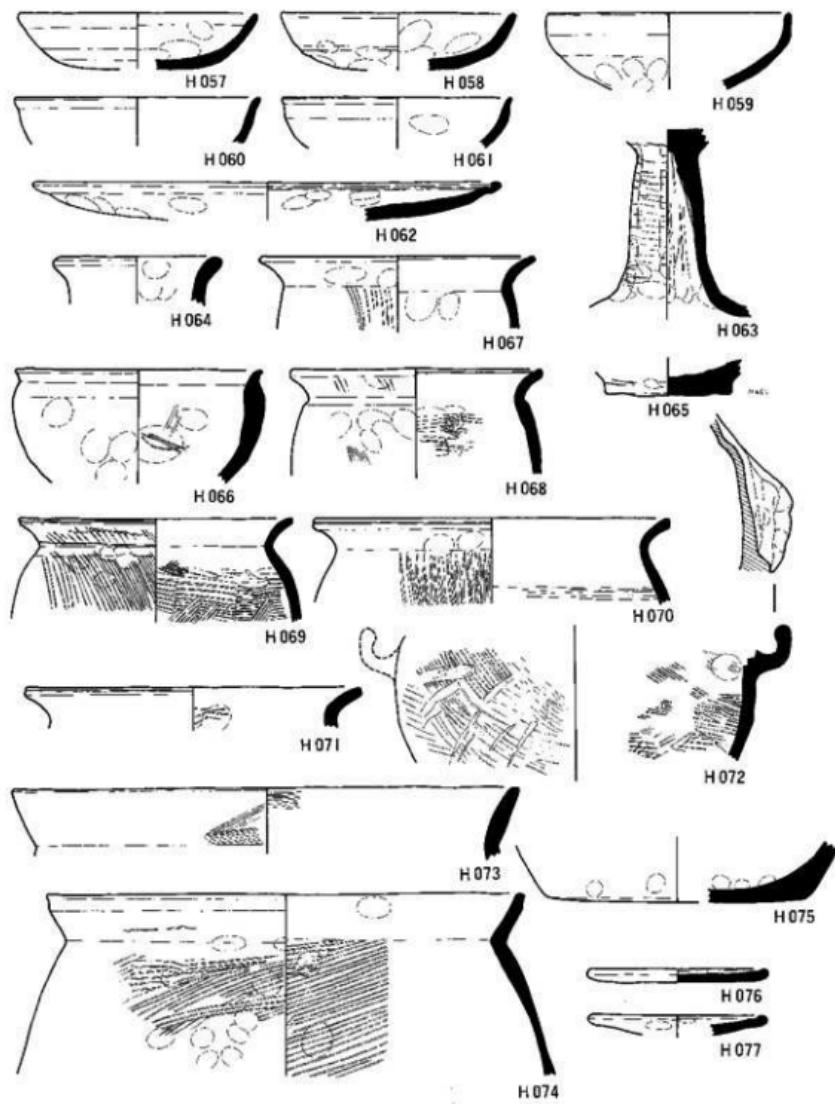
H 055



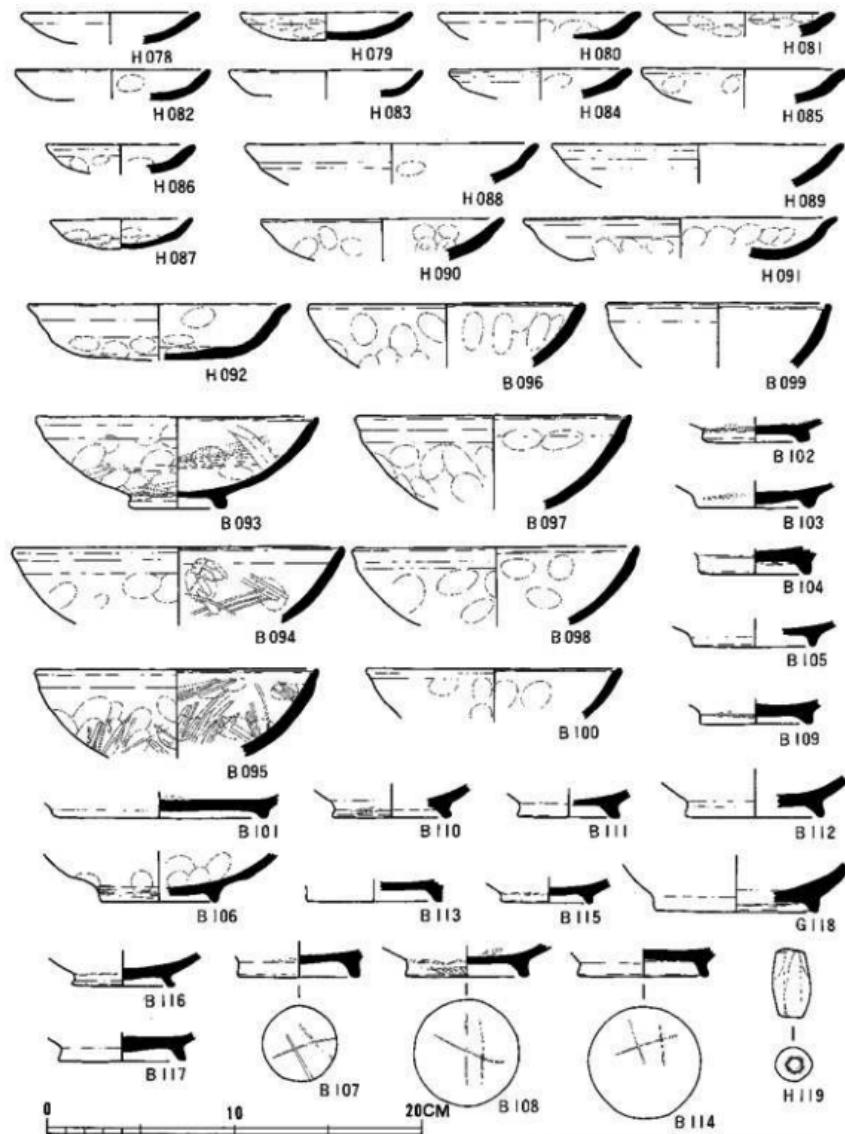
H 056

天神前遺跡出土七七器  
須恵器(C 044~C 049)

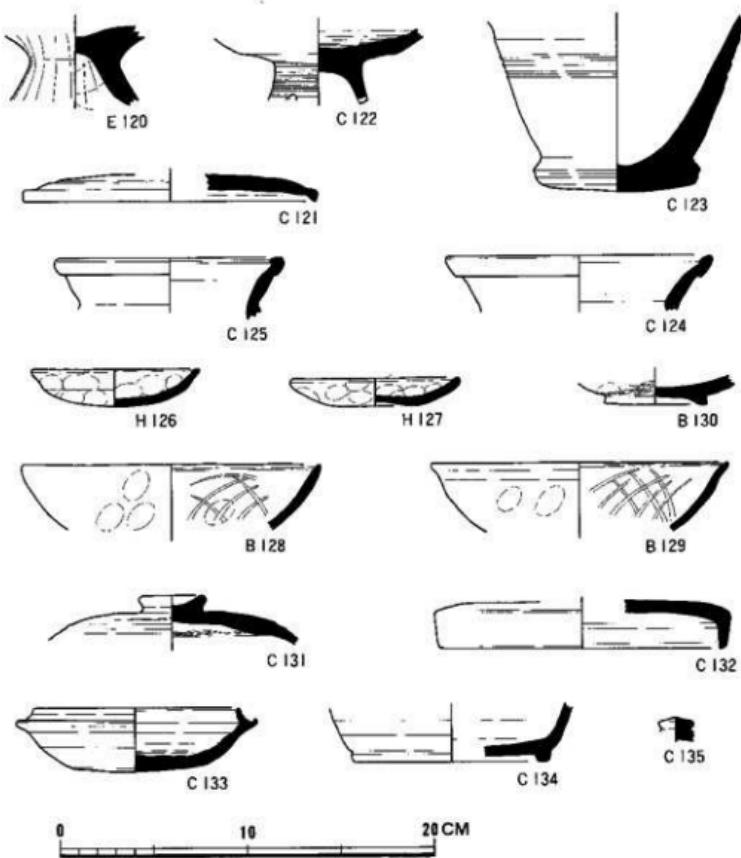
土師器(H 050~H 056)



天神前遺跡出土上蓋 手帥器 (H057~H077)



天神前遺跡出土土器  
十. 鋼 器(H078~H1092) 緑釉(G118)  
黒色土器(B093~B117) 土鍤(H119)



周辺地域出土上器  
木戸899.(E 120) 木戸194.(C 121~C 125)  
木戸906.(H 126~C 132) 八大堂後(C 133~C 135)

---

湖南中部流域下水道関連遺跡  
発掘調査報告書(虫生工区)  
—木部天神前遺跡—

1979・3

編集 滋賀県教育委員会  
発行 滋賀県教育委員会  
(財)滋賀県文化財保護協会  
印刷 株式会社 中村太古舎

---